研究室紹介

佐賀県茶業試験場

佐賀県の茶は，うれしの茶の名称で知られており，栽培面積は約700 haです。主に生産されているお茶は，茶葉が勾玉状で旨味がある「蒸し製玉緑茶」や，嬉野発祥とされる香ばしさが際立つ「釜炒り茶」など，全国でも珍しい茶種です。

佐賀県茶業試験場は，佐賀県西部の長崎県との境に位置し，茶主産地である嬉野市にあります。前身は1929年（昭和4年），釜炒り茶生産方式の近代化を図るため設立された財団法人佐賀県産業協会「茶業研究所」で，1943年（昭和18年）に県へ移管されて以来，改編を経ながら，現在まで，一貫して釜炒り茶と蒸し製玉緑茶の生産方式と茶園管理技術の研究開発に取り組んできました。

2020年からは茶担当普及指導員が配置され，茶樹研究担当，製茶研究担当そして普及担当の体制となり，試験研究と普及活動が一体となった強みを活かし，①収益性の高い茶業経営の確立　②持続性のある茶園づくり　③「うれしの茶」の需要・消費拡大　④安全・安心な茶生産システムの推進に取り組んでいます。

今回は，ここ10年ほどの植物防疫に関する取り組みを紹介いたします。

植物防疫

1　茶園における有機栽培の体系化

安心・安全な茶ニーズの高まりから，有機栽培における病害虫被害軽減技術の体系化に取り組みました。

この中では，チャノミドリヒメヨコバイ等の害虫被害の少ない品種の選定，夏季整枝による耕種的な炭疽病の抑制技術開発，マシン油乳剤等JAS認定有機資材を活用した病害虫発生抑制効果の確認，そして，これらを組合せた実証試験を行い，マニュアル化を図りました。

試験場全景

〒843-0302　佐賀県嬉野市嬉野町下野丙1870-5
TEL　0954-42-0066

茶業試験場のメンバー

2　チャトゲコナジラミ等に対応した効率的な防除体系の確立

平成26年，県内で初めてチャトゲコナジラミの発生が確認されました。また，同時期に主要病害虫の一部において，特定農薬に対する防除効果低下も懸念されており，いずれの病害虫に対しても防除効果が高い薬剤選定が必要とされました。そこで，既存の効果的な薬剤を用いた防除体系技術の開発に取り組みました。

ここでは，県内のチャトゲコナジラミと天敵シルベストリコバチの発生分布・消長の掌握，輪斑病やダニの薬剤感受性の確認，少量散布ノズルを使用した傾斜地用自走式薬剤散布機の性能評価，茶株裾部散布機の防除効果検証を行いました。そして，これらの成果を総合した効率的な防除体系を組み立てました。

3　無施肥・無防除栽培技術の確立

近年，需要低迷による茶業経営状況の悪化や労働力不足による耕作放棄園の増加が深刻化していることから，省力低コスト化による茶園維持を目的とし，無施肥・無防除栽培技術の確立に取り組みました。

この課題では，慣行栽培から無施肥・無防除栽培への転換においては，収量が半減するが品質への影響は大きくないこと，新芽生育や病害虫発生の変化，土壌や樹体内の成分変化を明らかにしました。また，香りを重視した発酵茶に加工することで，より特徴のある商材ができることを明らかにしました。

現在，厳しい茶業情勢の中，ますます産地の茶業を支援することが重要となってきております。今後も，うれしの茶の振興に向け，現場に寄り添った技術開発に取組んでいきたいと思います。

（茶樹研究担当係長　中村典義）